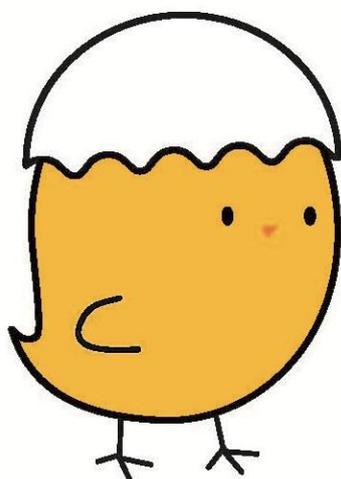


産業能率大学

中村知子ゼミ

水井チーム

「笑顔になれる二子玉川商店街、楽しく歩ける帰り道、子供との散歩道」



二子玉川商店街のふたこたまごちゃん

参加メンバー（敬称略）	
チームリーダー：水井 貴也（2年）	
川口 賢二（2年）	吉田 郁也（2年）
佐野 美乃（2年）	藤村 彩美（2年）
東郷 凌也（2年）	土井 一輝（1年）
畠野 航輔（2年）	日暮 日菜（1年）
指導教員：中村 知子（経営学部現代ビジネス学科 准教授）	

笑顔になれる二子玉川商店街、楽しく歩ける帰り道、子供との散歩道



～二子玉川商店街の地域コミュニティの活性化～

産業能率大学 経営学部 現代ビジネス学科 中村知子ゼミ

1. はじめに ～二子玉川商店街でみんなが笑顔に～

今回、私たちは昨年から自分たちが地域交流の活動として、毎週通っている二子玉川商店街の地域コミュニティの活性化の事業提案を行う。

私たちは、この商店街での地域活動を「準備から協力する地域活動」としてイベントのための会議参加から活動を始めた。そして、商店街に毎週通い、地域の歴史を学び、二子玉川商店街の地域の方々と一緒に過ごす時間を重ねることによって、私たちは「準備から協力する地域活動」から「地域の人たちと活動する地域に根を下ろした活動」を行えるようになった。



二子玉川商店街

このような地域との交流を通して、私たちは地域の外側から地域のことを分析し、課題を見つけ、その対策としての事業案を提案するのではなく、**地域の内側から、その地域に住む方たちと同じ目線で地域のことを考えて地域の人のためになる、地域の人**が本当に望む事業提案を以下の流れで行うこととした。

(1) 「地域に根を下ろした活動」から見えてきたこと ～課題の発見～

課題：「地域の絆が弱くなってきている」

昔から住んでいる方と居住年数が少ない方の地域の関わり方が違うため、地域の人との関係が希薄になりコミュニティの形成ができなくなってきている

(2) 二子玉川商店街の現状分析（アンケート調査、インタビュー調査）

インタビュー調査：二子玉川小学校校長 千葉秀一先生、瀬田中学校副校長 江坂正人先生

(3) 子供たちから始める二子玉川商店街や地域コミュニティの形成

調査結果から、地域コミュニティを形成するための対象を地域とコミュニケーションが取れている小学校の子供たちなどに設定した。子供たちから地域のことを保護者の方に話してもらい、イベントなどに親子で来てもらうことによって地域との絆を作っていくことにした。そのために、自分たちで運営できるイベントをプレ事業とし、この実施結果をもとに事業提案を行うことにした。

(4) 調査結果に基づく事業提案のためのプレ事業の企画とその実施

① 駄菓子屋「おかしモ」定期運営と子供たちと地域の交流を図る

② 「青空アート&マート」での子供たちのための出展企画・実施

子供たちに地域に興味を持ってもらうために**地域のひよこのキャラクターふたこたまごちゃん**を使った「ふたこたまごちゃんのぬりえ」と「走れ！ふたこたまご号」を「青空アート&マート」に出展した。



駄菓子屋「おかしモ」の運営

2. プレ事業の企画とその実施の結果に基づく事業の提案

プレ事業の企画の検討・実施や商店街の店主さんやインタビューした先生方からの意見、調査結果や商店街に来る方の意見から以下の3つの二子玉川商店街の地域コミュニティの活性化のための事業を提案する。



ふたこたまごちゃんイベント

子供たちと保護者の方が一緒に参加して楽しむ二子玉川商店街でのイベントを実施する。

- ・ふたこたまごちゃんラリー
- ・ふたこたまごイングリッシュガーデン



お休み処 ふたこたまご

フリースペースに、椅子を置き、自由に休憩してもらえるスペースを作り、地域交流の場を作る。また、ワークショップも行い、これらを通して交流を深めてもらう。



ふたこたまごわ ドックラン

世代を問わず「ドッグランで仲良くなろう」という目標で、高架下のふれあい広場にドッグランを作る。カフェ、茶店、ベンチを設け交流を深めてもらう。

笑顔になれる二子玉川商店街、楽しく歩ける帰り道、
子供との散歩道

～二子玉川商店街の地域コミュニティの活性化～



二子玉川商店街のふたこたまごちゃん

産業能率大学

経営学部 現代ビジネス学科

中村知子ゼミ

川口賢二 (2年)

吉田郁也 (2年)

佐野美乃 (2年)

藤村彩美 (2年)

東郷凌也 (2年)

土井一輝 (1年)

水井貴也 (2年)

日暮日菜 (1年)

畠野航輔 (2年)

1. はじめに ～二子玉川商店街でみんなが笑顔に～

今回、私たちは昨年から自分たちが地域交流の活動として、毎週通っている二子玉川商店街の地域コミュニティの活性化の事業提案を行うことにした。

私たちは、自分たちが良く知っている商店街の店主さんたちやそこに来るお客様、通学で商店街を通る小学生の子供たちとの日常の何気ない会話から知ることができた街の課題に対して、現状調査と分析を行い、その結果をもとに実際に自分たちで実行できるプレ事業を企画・実施し、そのプロセスやプレ事業の実施結果から得られたことから事業提案を作成することにした。

私たちは、産業能率大学の自由が丘キャンパスにおいて、経営学について学んでいる。マーケティングや市場分析などの学びの基盤となっているのが本学の特徴でもあるアクティブラーニング（以下、ALとする）である。このALは、グループで学習を行う際に、メンバー同士の発言や行動などグループでの活動プロセスから多くのことをお互いに学んでいく学習方法である。私たちは、この産能生（学生は自分たちのことをこう呼んでいる）が持つ力を自分たちの地域のために活かすことを考えた。

2. 事業提案までの流れ

私たちは、地域の外側から地域のことを分析し、課題を見つけ、その対策としての事業案を提案するのではなく、地域の内側から、その地域に住む方たちと同じ目線で地域のことを考えて以下のような流れで活動を進めることにした。

■事業提案までの活動の流れ

- (1) 地域の方との活動や交流を通して地域の課題を洗い出す
使用する手法：カード法、クリックابلマップ
- (2) 課題に対する地域の現状分析
使用する手法：アンケート調査法、インタビュー調査法
- (3) 調査結果のまとめと仮説の設定
使用する手法：カード法、クリックابلマップ
- (4) 調査結果に基づく事業提案のためのプレ事業の企画とその実施
- (5) プレ事業の企画とその実施結果に基づく事業の提案

今回の活動や事業提案は、世田谷区の広い地域に関わるような大きな地域交流イベントでも、調査分析がしっかり行われ計算しつくされた事業計画ではない。これは、同じ地域に大学ある学生が、その地域のために時間をかけて地域の方と交流を図りながら、その地域の課題を見つけ解決策を考えるという地道な地域コミュニティにおける活動の結果であり、二子玉川商店街という地域の人の絆を強め、コミュニティの活性化を図るための事業提案である。

大学生という自分の時間を自分でどう使うか（バイトをする、遊ぶ、資格の勉強をするなど）を自由に決めることができる自分たちが、望み選んだ地域でのコミュニティ形成のための提案である。

3. 私たちと二子玉川商店街とのかかわり

二子玉川商店街がある二子玉川という地域は、多摩川沿いに発展してきた地域であり、二子玉川遊園地（1985年3月31日閉園）や昭和44年11月11日にオープンした玉川高島屋S・Cの進出などに加え、昭和52年4月11日に開通した新玉川線（現在の田園都市線渋谷～二子玉川間）により交通アクセスが良い地域となり、発展を続けている。

二子玉川商店街は、大山みちという街道にあり、その商店街の中には二子玉川小学校がある。商店街には、何代も続く歴史のあるお店が多い。美味しい焼き団子や手作りの和菓子の西河製菓店、魚の鮮度と味に定評のある魚石さん、豆腐を手作りしている須田豆腐店、自転車のあらゆる修理を行い、乗る人を大切にしているサイクルショップ シロタ、日本中のおいしいお米を取寄せ、お客さんにつきたてのお米を届けている名川精米店、地域のどこのおうちにもすぐにお酒を届けてくれる玉川酒店など魅力的なお店がたくさんある。



二子玉川商店街の西河製菓店 (左) サイクルショップシロタ (右)

二子玉川商店街の魚石 (左)

私たちはゼミの有志で、昨年から自分たちの大学がある世田谷区での地域交流として二子玉川商店街を拠点として活動を行っている。

最初は、春に行われるイベントの会議への参加から活動が始まった。そのイベントとは、「青空アート&マート 大山みち」「大山みちフェスティバル」という二子玉川商店街で行われるイベントのことである。このイベントは二子玉川商店街の方々が大変力を入れているものであり、これまでに多くの大学のゼミの学生やボランティアサークルの学生たちが、イベントだけのボランティアとして参加していた。

しかし、私たちは当日だけのイベントのボランティアやイベントの直前の数週間だけのボランティアでなく「準備から協力する地域活動」として活動を始めた。そのために、私たちは地域のことをより深く理解するために二子玉川郷土史会の鈴木会長に「二子玉川の歴史」の講義をして頂き、地域の歴史の勉強もしっかり行っていった。

現在、私たちは二子玉川商店街のアート&マートの作戦会議、大山みち実行委員会への定期メンバーとしての参加、これらのイベントでの自分たちの企画内容の出展、イベント当日の運營業務などを任せてもらえるようになった。このイベント当日の運營業務としては、ボランティアとして参加する他大学・短期大学の学生や世田谷区の高등학교、中学校の生徒のサポート、支援業務などを行っている。

このように、二子玉川商店街の地域の方々と一緒に過ごす時間を重ねることによって、私たち

は「準備から協力する地域活動」から「地域の人たちと活動する地域に根を下ろした地域活動」を行うようになった。

4. 「地域に根を下ろした活動」から見えてきたこと ～課題の発見～

二子玉川商店街での活動が活発化し、商店街の店主さんたちのお話から商店街が抱える課題が私たちにも見えてきた。

それは、お店のお客様や地域のイベントに参加する方が昔からの付き合いの方が多く、新しく地域に転入してきた人たちとの交流があまりできていないということであった。つまり、地域の絆が弱くなってきている、または、特定の人たちとだけの地域コミュニティになってしまっているということが地域の課題になっていた。

二子玉川商店街の周辺には、玉川高島屋S・Cや2011年3月に駅前にオープンした大型商業施設二子玉川ライズショッピングセンターがある。また、二子玉川駅周辺の開発が進み、新しい高層マンションも多く建っている。また、2015年には映画館やホテルも駅前にできる予定がある。

このような周辺の状況から、この二子玉川商店街の近くの住宅に引っ越しをして来る人も多く、人口は増えている、または、これから増えていくと考えられるとのことであった。

この新しく引っ越しをして来た人たち（以下、居住年数が少ない方とする）が地域や商店街に来てくれない、来ても駅に行くための通り道として利用しているだけで関係を持とうとしていない。商店街として地域として、近くに暮らす人たちがお互いのことを知らないのは災害時などの方が一の時のことを考えても不安であるとのことであった。

そこで、私たちは二子玉川商店街で何代にも渡ってお店をやってきた店主さんたちが感じ、解決したいと考えている地域の絆を深め、コミュニティの活性化を図ることを、今回の事業提案の課題として設定することにした。この商店街の店主さんたちが感じ考えていることは、1年近く通っている私たちにも感じるができる地域の課題であった。

5. 二子玉川商店街の現状分析

二子玉川商店街の地域の絆やコミュニティは、本当に弱くなってきているのか？居住年数が少ない方は地域のコミュニティに参加できていないのか？、これらの現状を把握するために私たちは、商店街の店舗を利用している方や通行している方に対して商店街や地域のイベントを知っているかを尋ねるアンケート調査を行い、二子玉川商店街の現状把握を行うことにした。

◆この時点での課題

二子玉川商店街の地域の絆は存在しているのか？その絆はどのような人たちの間で形成されているのか？

5-1. 二子玉川商店街やその地域の認知度に関するアンケート調査

この課題を解決するために、以下のアンケート調査を実施した。

- 調査目的 二子玉川商店街や地域に対する認知度の調査（アンケート用紙は別紙参照）
- 調査対象 二子玉川商店街で買い物をした方、商店街を通行している方
- 調査方法 アンケート調査（質問紙調査方法）
- 調査期間 2014年8月8日(金)、15日(金)、20日(水) 11:00～17:00

■有効回答数 17件

■アンケートを実施時の状況

8月の炎天下の時期であったことも重なり、アンケートのために足を止めて頂けなかった。また、通行している方があまり多くなかったため、回答数が少なくなった。

5-2. アンケート結果

アンケート調査の結果は以下のよう
なものとなった。

まず、住んでいる地域の商店街のお店
を認識しているのかを知るために「商店
街のどんなお店に買い物に行きます
か？」という問いを設定した。この問
いに対する答えは、図1にあるように
商店街の店舗と答えた人が75%であ
った。魚、和菓子などの食品を扱う店舗
を利用する人が多かった。また、商店街に
あるコンビニエンスストアを利用する
という人が15%、デパートが10%であ
った。なお、複数回答のため、商店街の
店舗とデパートやコンビニエンスストア
という回答もあった。

次に、地域を利用しているかを知るた
めに「商店街の利用頻度」についての問
いを設定した。図2にあるように、商店
街を週に何回通るかでは、週に3.5回
通るという結果であった。また、買い物
は、週に2.4回であった。その他の回
答としては、二子玉川に遊びに来て初め
て来たというものがあった。

二子玉川商店街の地域に住んでいる
かを知るために二子玉川商店街までの
交通手段への問いを設定した。この問い
に対する回答としては、図3にあるよう
に、徒歩が65%と多く、電車15%、車
10%、自転車、バス各々5%であった。
これらの回答以外には、車やバスも使う
が徒歩でも来られるというものがあっ
た。

居住年数に対する問いの回答の平均居住年数は、21.6年であった。短い方で3年、長い

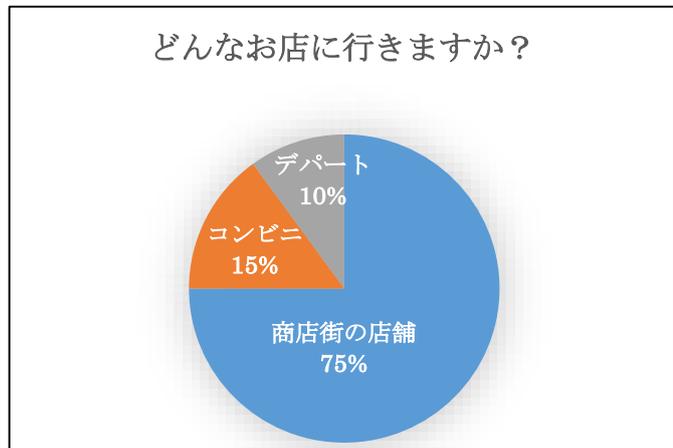


図1

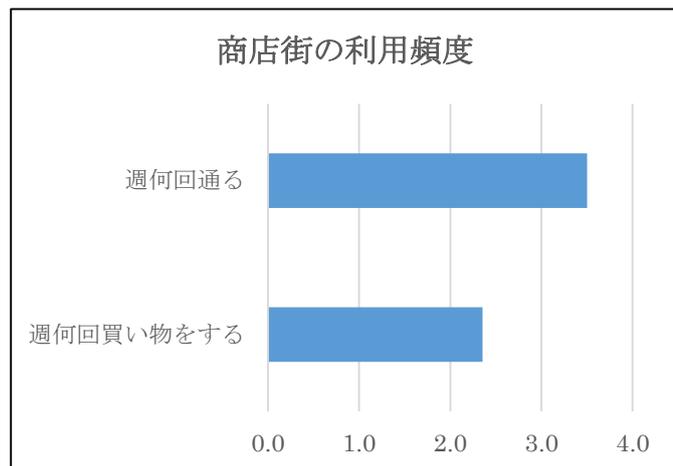


図2

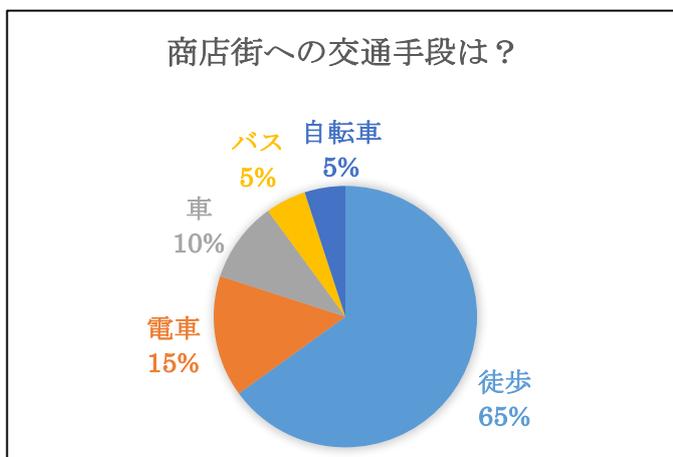


図3

方は68年であった。

この他、地域の商店街に対するイメージを知るために自由記述として「二子玉川商店街の魅力とは？」という問いを設定した。この問いに対しては、以下のような回答があった。

- ・お店の人と会話できるところ
- ・子供にやさしい、子供だけで行ける
- ・親しみやすい、人が穏やか
- ・食べ物が新鮮でおいしい
- ・立ち寄りやすい
- ・顔なじみ、昔からのつきあい、昔からの付き合い
- ・雰囲気が良い、ちょっと昔っぽいレトロなところ
- ・今と昔が融合しているところ
- ・安心感がある など

これらのアンケート結果から、以下の地域の現状を確認することができると思う。

- (1) 二子玉川商店街という地域をきちんと認識し、そこにあるお店や商品、接客に対する魅力を理解している
- (2) 商店街のお店を利用する人は、昔からの方が多く地域との関係ができている人が多い
- (3) 居住年数が少ない方は、通行には利用するが商店街のお店は、あまり利用していない
- (4) 商店街や地域の雰囲気や子供に対する安心感は昔から住んでいる方、居住年数が少ない方の両方から評価されている

今回のアンケート結果から、昔から住んでいる人同士の絆はあるが、居住年数が少ない方たちとの交流はあまりなく、昔よりも地域の人間関係が希薄になってきていることがわかった。

このような状況の中で、私たちは、アンケート結果の中で居住年数が少ない30代のお母さんからもらった「この地域（商店街）は、子供にやさしい」という自由回答に着目した。これは、私たちが普段目にして光景でもあった。商店街にあるお魚屋さんの「魚石」さんは、お店の前を通る子供たちに必ず声をかけている。また、子供たちも学校や塾の行き返りにお店の方と楽しそうに話をしている姿をよく見かけた。この商店街では、子供たちの見守りが自然と行われている。

そこで、大人よりも地域との交流を持っている子供たちから、そのご家族へと地域とのコミュニケーションの輪を広げて、地域との絆を作る方法があるのではないかと考えた。

◆この時点での課題

二子玉川商店街の地域のコミュニティの形成を、地域とのコミュニケーションが取れている子供たちから始めるためにはどうすれば良いか？

6. 子供たちから始める二子玉川商店街の地域コミュニティの形成

私たちは、子供たちが、自分たちが住んでいる地域や小学校の側にある商店街をどのように感じ理解しているか、また、学校で地域との関わりについてどのように習っているかを調べるために商店街に学校がある二子玉川小学校と商店街で開催される「大山みちフェスティバル」にボランティアとして生徒が参加している瀬田中学校の先生にインタビュー調査を行うことにした。

■調査目的 地域との交流や自分たちが住んでいる地域や商店街のことをどのように学校で教えているか

■調査対象 二子玉川小学校 校長 千葉秀一先生
瀬田中学校 副校長 江坂正人先生

■調査方法 インタビュー調査法

6-1. 二子玉川小学校

■日時 2014年8月28日(木) 14:00~17:00

■二子玉川小学校 校長 千葉秀一先生

二子玉川小学校で千葉校長先生に教育、学外イベント、学内イベント、小中学生、学校事情などについて質問を行った。

二子玉川小学校は、地域交流が盛んな小学校で、職員玄関に入ると多くの野鳥の写真や賞状が壁一面に飾られていた。それらから、愛鳥モデル校だということがよく分かった。多摩川の河川敷で子どもたちと生活科の授業でシロサギやカワサギそしてカワウといった野鳥のバードウォッチングも行っているということであった。



二子玉川小学校 千葉校長先生

二子玉川小学校では、このような地域や自然、環境を守ろうという意識を子供たちに持つってもらうためにさまざまな取り組みが行われていた。

地域や商店街とのかかわりとしては、秋に開催される「大山みちフェスティバル」が小学校の校庭で行われるため、先生方、PTAの方、世田谷区の方などが参加するため子供たちも自然と商店街を意識するということであった。また、学年によっては、学習の一環として商店街のお店におうちの人と行ってお店を見て来るといったものがあるそうである。

この他、地域との関わりについては、二子玉川小学校の前の歩道は道幅が狭く子ども達は集団下校をすることが困難なため、知り合いが作りにくいとのことであった。そのため年に一度、地区ごとに集まる機会を持ち、お互いの顔を知り理解することによって、もしもの時や災害の時に備えているということだった。

■インタビューを行った感想

今回、千葉校長先生のお話を伺って私たちが新に気づいた点は、子どもたちの遊ぶ場が少ないという現状と小学校の近辺には学習塾や児童館そして学童の施設が少ないということであった。また、先生から私たちに「地域でせっかく活動をしているので、駄菓子屋おかしモで子供たちと一緒に遊びながら、勉強も教えてあげて欲しい。当然、産業能率大学ならではの勉強も」という言葉を頂いた。最後に、校長先生が、この地域は一体感があって良いと話されていたのが印象的だった。

6-2. 瀬田中学校

■日時 2014年8月29日(金) 14:00~17:00

■瀬田中学校 副校長 江坂正人先生

地域や二子玉川商店街での中学生の状況を知るため、二子玉川商店街の地域で活動を行っている瀬田中学校の副校長である江坂先生にインタビューを行った。二子玉川小学校の校長先生と同じ質問項目でインタビューを行った。

瀬田中学校は直接的に二子玉川商店街に面しているわけではないが、中学校が所在している瀬田地域との交流を大切にしている。また、二子玉川商店街の地域においても、中学生たちは二子玉川小学校の朝のあいさつ運動に、ボランティアとして参加していた。これは、8時10分から8時30分まで二子玉川小学校で活動をし、そのあと中学校に登校しているということであった。

瀬田中学校は直接的に二子玉川商店街に面しているわけではないが、中学校が所在している瀬田地域との交流を大切にしている。また、二子玉川商店街の地域においても、中学生たちは二子玉川小学校の朝のあいさつ運動に、ボランティアとして参加していた。これは、8時10分から8時30分まで二子玉川小学校で活動をし、そのあと中学校に登校しているということであった。

このような活動があるため、二子玉川小学校の千葉校長先生も瀬田中学校のことを良く知っていた。また、瀬田中学校の江坂副校長先生も二子玉川小学校と関わりがあるため、二子玉川商店街やその地域のことを良く知っていた。

この他、瀬田中学校は、地域のボランティア活動に積極的な参加があり、8月の花火大会後の河川敷クリーン清掃、隣接する瀬田小学校や二子玉川小学校の運動会のお手伝いなどを伝統的に行っているとのことであった。また、このようなボランティア活動は、生徒会から呼びかけ、生徒が自主的に活動するようになっていた。地域交流という点において、瀬田中学校は先生方もPTAの方も生徒に積極的に進めていることがわかった。

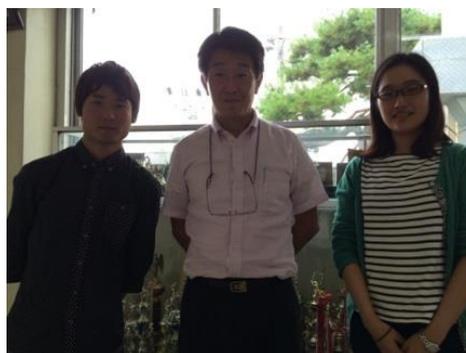
■インタビューを行った感想

江坂副校長先生からは、「二子玉川商店街の地域の交流の場に瀬田中学校の生徒と一緒に参加させてほしい」という言葉を頂いた。私たちは、瀬田中学校は二子玉川駅を出て二子玉川商店街とは逆の方向にあるため、なかなか商店街とは関わりがないと思っていた。しかし、このインタビューの結果から、地域を意識した活動を積極的に行っており、生徒たちが地域の人たちとの交流に抵抗を持たず、積極的にかかわっていることがわかった。

7. 調査結果に基づく事業提案のためのプレ事業の企画とその実施

子供たちに今まで以上に地域や地域の人たちとのコミュニケーションを取ってもらい、そこから子供たちの保護者の方（昔から住んでいる方、居住年数が少ない方）と地域の交流につなげていくための企画とその実施の検討を行った。

これらは、自分たちの力だけで実行可能な内容にするため、プレ事業という位置づけにした。このプレ事業の検討時の地域の方からの意見やプレ事業を行っての結果を、今回の事業提案の内容につなげていきたいと考えている。



瀬田中学校 江坂正人副校長先生

7-1. 駄菓子屋「おかしモ」

駄菓子屋「おかしモ」という小・中学生向けの商店街で運営されている駄菓子屋さんの定期的な運営を行い、子供たちとのコミュニケーションの場を作ることにした。

この駄菓子屋「おかしモ」は、これまでも二子玉川商店街において不定期で運営されていた。ただ、運営スタッフ（すべてボランティア）の不足から定期的に営業をすることが出来なくなっていた。急な日程変更も多く、子供たちから「駄菓子屋さんがいつあいているかわからない」と言われていた。

そこで、子供たちが安心して来ることができるように駄菓子屋「おかしモ」の定期運営の準備を行い、運営スタッフとして参加することにした。

この駄菓子屋「おかしモ」をうまく活用し勉強会やワークショップを行うことで、その空間で遊びも学びもどちらも行うことができるのではないかと考えた。

また、それだけではなく子供の安全を最優先に考えて、駄菓子屋「おかしモ」を運営するという子どもたちと地域のコミュニケーションを図る際の課題も見つかった。

私たち産能生の強みである経営学部ならではの勉強内容やALを取り入れたワークショップの企画・検討も行うことにした。

7-2. 「青空アート&マート」での子供たちのための出展企画とその実施

「青空アート&マート」のイベントで私たちが企画した「ふたこたまごちゃんのぬりえ」と「走れ！ふたこたまご号」をプレ事業として出展できることになった。私たちは、地域のことをあまり知らない小学生以下の子供たちにも地域のことを知ってもらおうと二子玉川商店街のひよこのキャラクターである「ふたこたまごちゃん」のぬりえとぬりえ作品を歩くキャンパスに見立てたレインコートを着た私たちの体に自由に貼り付けてアートを楽しむワークショップを実施することにした。また、子供たちがクレヨンで塗ったふたこたまごちゃんが、プラレールに乗るという企画も出展できることになった。

このほか、4月の「青空アート&マート」で実施して子供たちに大好評であったオーバー・ザ・レインボー&レインボープールという段ボールで作ったプールに虹色のテープを入れる企画の出展も行うことになった。

これらのプレ事業の企画・実施結果から、商店街や地域の魅力を子供たちの興味に合わせて提示していくことが、地域での絆づくりに効果的であることがわかった。



駄菓子屋「おかしモ」の運営



二子玉川商店街のふたこたまごちゃん



オーバー・ザ・レインボー&レインボープール

8. プレ事業の企画とその実施の結果に基づく事業提案

プレ事業の企画・実施の結果、商店街の店主さんや小学校、中学校の先生方からの意見、アンケート調査の結果や商店街に来る方の意見などから以下の3つの事業を提案する。

(1) ふたこたまごちゃんイベント

子供たちと保護者の方が一緒に参加して楽しむ二子玉川商店街でのイベントを実施する。このイベントは、現在実施されている年2回の「青空アート&マート」と同じような規模のイベントにする。このイベントの内容としては、以下のようなものを考えている。

・ふたこたまごちゃんラリー

二子玉川商店街や地域の歴史をめぐるウォークラリー。このラリーのポイント地点にふたこたまごちゃんがいる、子供たちとハイタッチをしてくれる。ポイント地点では、商店街のお店クイズや地域の歴史クイズに答えながら親子で地域の探索を行っていく。保護者の方の許可が頂ければ、産能生が子供たちと一緒にウォークラリーを行うこともできる。

・ふたこたまごイングリッシュガーデン

最近増えてきている海外から日本に来ている方のお子さんたちと地域の子供たちが、ふたこたまごちゃんとネイティブスピーカーの先生と地域のことやお店の商品の英単語や日本語を覚えていくワークショップを行う。このワークショップも保護者の方と一緒に参加できる。TOEIC600点以上か6ヶ月以上の海外留学経験のある産能生がサポートを行う。

この他、二子玉川商店街のヒヨコのキャラクターである「ふたこたまごちゃん」を活かしたイベントを企画し、実施する。

(2) お休み処 ふたこたまご

商店街を訪れていた高齢の方の「買い物の途中で疲れるので休むところが欲しい」というお話から考えた事業である。現在、フタコノヘヤとしてフリースペースとなっている商店街の道路に面している場所をお休み処にする。

このフリースペースに、椅子を置き自由に休憩してもらえるスペースを作る。また、このお休み処で手芸や簡単な英会話のワークショップを開き、昔からの地域の方と居住年数が少ない方の交流を図ることを考える。この他、駄菓子屋「おかしモ」と同じスペースにお休み処をもうひとつ作り、子供たちと高齢の方、地域の方、居住年数が少ない方との交流の場にする。

(3) ふたこたまがわ ドックラン

この企画は、二子玉川商店街の小学生、中学生だけでなく、大人の方にも地域のことを知り、地域のことを好きになってもらいたいと考えた大人の方向けのイベントである。

二子玉川商店街でアンケート調査を行っている時に、犬の散歩で通っている方を多く見かけた。この犬の散歩をしていた方は、昔から住んでいる方、居住年数が少ない方などさまざまであった。

そこで、世代を問わず「ドッグランで仲良くなろう」という目的で、高架下のふれあい広場でドッグランを作る事業を提案する。

二子玉川商店街では、自分の家のペットと散歩する時に交通量の多い道路で車に気をつけながら散歩を行っている。犬とその飼い主さんが立ち止ってゆっくりできるような場所も少ない。そこで、高架下のふれあい広場を使い、犬の安全を考えて囲いをつくるなどの工夫をし、ドッグランを作成する。

これは、犬の散歩をしている人たち同士の犬との交流から人との交流へつなげていこうというものである。つまり、ペットという大切な家族を通して、地域との関わりを持ってもらう事業である。

私たちは、「ポチ（ペットの名前）ちゃんのお母さん（お父さん）」というような愛称で飼い主さんたちが仲良くなり、お話をしている姿を自分の地域でよく見ている。この二子玉川商店街の地域には、このようなお話をゆっくり行う場所がないも少ない。そこで、ドッグランの側に簡単なカフェか茶店、または「一休み」を目的としたベンチを設け、「お母さん（お父さん）同士」の交流を深めてもらおうと考えている。

この他、犬のしつけ教室などの犬に関するワークショップなどを行い、交流を深め、犬という大切な家族を通して、地域の絆つくりとコミュニティの活性化を図りたいと考えている。

9. 最後に

今回、私たちは自分たちが地域交流の活動を行っている二子玉川商店街の地域コミュニティの活性化のための事業提案を行った。

この事業提案の内容が、実際に地域の方たちが望んでいるものであり、その事業から成果が得られることをプレ事業の結果から実感し、今回の事業を提案した。

「地域のために・・・」、「地域を活性化させる・・・」と最近は新聞などでもよく目にするようになった。しかし、地域のためになる地域貢献を行うためには、地域との関係を構築し、地域の方と同じ目線で物事を見る必要があるのではないかと今回の事業提案を通して私たちは考えた。

私たち大学生は、大学の授業や勉強以外の時間を自分の判断ひとつで自由に使うことができる。だからこそ、今のこの大切な時間を自分たちと交流を持って下さる地域の方と過ごす時間に使いたと考えている。

私たちの事業提案は、地味ではあるが地域の方と一緒に考えた、地域の方が望む事業提案であるという自信を持っている。

謝辞

今回の「世田谷まちづくり大学生プレゼン大会」や普段の活動でお世話になっている方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

二子玉川小学校 校長 千葉秀一先生、瀬田中学校 副校長 江坂先生

二子玉川郷土史会 鈴木英二会長、サイクルショップ シロタ（二子玉川商店街 理事長）、西河製菓店（副理事長）、名川精米店（副理事長）、玉川酒店（副理事長）、魚石さん、肉の宝屋さん 他 二子玉川商店街のお店の店主さん

オフィス橘 代表 橘 たかさん、鈴木理英さん、米良ケイトさん、

駄菓子屋おかしモ 藤本さん、山大さん

